



2018年4月入職

くりはらゆう
栗原優

自分の笑顔で、患者さまに安心を提供したい

新人の頃は、不安だらけだった

この仕事を選んだきっかけは、女手ひとつで私を育ててくれた母親の影響です。薬剤師として働く母親の姿を見ているうちに、いつしか医療への道を志すようになりました。幼少期の夢は大人になるに連れて変わっていくことが多いかと思いますが、私の場合は年齢を重ねても変わることはありませんでした。医療業界での進路を調べているときに、見つけた臨床工学技士の仕事が、技術を突き詰めていけるものだと知り、自分に合っているのではないかと考え、この道を選びました。

これまでのキャリアを振り返ってみると、新人の頃はいつも不安だらけでした。穿刺に入ると手が震えてしまい、患者さまの質問にも的確に答えられず、「大丈夫なの？」と言われたことも少なくありません。実際に自分が患者さまの立場に立ってみると、不安がっているスタッフに針を刺される怖さ、知識がない人に提供される医療ほど不安なものはないと思います。今でも覚えているのは、目の不自由な患者さまを担当したときのことで、いつも誰が針を刺してくれるのか見えないので不安だとおっしゃるその方への穿刺を、私は失敗してしまいました。二度とその方を担当できなくなることを覚悟しましたが、「成功するまで刺していいんだよ」とおっしゃっていただき、その優しさに胸を打たれると同時に、そのご厚意に甘えることなく、知識と技術の向上を目指し、その患者さまのご期待と信頼に応えたいと思いました。



これまで以上に、笑顔を増やして



私の強みは笑顔だと思っています。職場や研修センターでも「笑顔が良いね」と声を掛けていただくことが多かったので、自分の強みとして意識するようになりました。思いやりエキスパートに選ばれたことで、自信を持って働けるようになってからは、以前よりも笑顔が増え、自分の笑顔で職場の雰囲気を明るくしたいという気持ちがさらに強くなりました。笑顔は良い印象を与

えられるだけでなく、相手の緊張した心をほぐす効果もあると思っています。私のクリニックには多くの思いやりエキスパートが在籍していて、新人の頃の私にとって大きな支えとなってくださいました。次は、自分がその役割を担う番です。これまで以上に笑顔心をかけながら、患者さまが安心できる医療を提供していきたいと思っています。

笑顔と思いやりを大切に
信頼される臨床工学技士を
目指します

栗原 優